

令和 3 年 6 月 4 日現在

機関番号：12601

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2020

課題番号：18K13049

研究課題名（和文）戦後日本における文化会館整備過程：設立経緯、自治体施策、関連施設との比較調査から

研究課題名（英文）Historical Research on Public Halls in Postwar Japan

研究代表者

新藤 浩伸（Shindo, Hironobu）

東京大学・大学院教育学研究科（教育学部）・准教授

研究者番号：70460269

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,700,000円

研究成果の概要（和文）：第一に、公民館、図書館、博物館、その他集会施設も含めた教育文化施設の歴史や原理に関わる基本文献を収集し、検討を進めた。

第二に、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、当初予定していた各地の文化会館の訪問調査、関係者への聞き取りに関しては計画変更を余儀なくされたが、収集した各地の文化会館の資料の目録作成を進め、完了することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

第一に、教育文化施設はいかなる意味で公共性を有するかという原理的歴史的問いを提起した。

第二に、本研究を通じて、文化施設関係の資料を、公共性をもつ文書として社会の中に位置づけていく必要性を提起した。今回作成した目録をもとにアーカイブ整備の準備を進めているが、文化会館の設置運営に関する資料は所有者が明確ではなく、公文書としての位置づけも弱い。そのため散逸の危険が非常に高く、廃棄されてしまう例も多い。文化会館の歴史は、施設の歴史にとどまらず、施設が位置づく都市の歴史であり、社会の歴史でもあるため、関連資料整備や保存公開の原則、仕組みの構築など、今後も実践的な調査研究が求められる。

研究成果の概要（英文）： The purpose of this research was to investigate the history of the Public Hall after World War II.

First, I collected and examined a wide range of basic literature related to the history and principles of educational and cultural institution, including public halls, libraries, museums, and other public spaces.

Secondly, due to the spread of the new coronavirus infectious disease, I had to change the original plan for visits to the public halls in each region and the interviews with the people concerned. However, I collected the materials of the public halls in each region. I proceeded with the cataloging and was able to complete it.

研究分野：教育学

キーワード：文化会館 公共ホール 社会教育 生涯学習 劇場 文化政策

1. 研究開始当初の背景

今後目指される持続可能型社会において、豊かな生活を創出する拠点として文化会館は可能性を持つが、その価値は必ずしも明らかではなく、財政難、自治体改革の中で存在意義が厳しく問われている。

2. 研究の目的

本研究の目的は、公民館、図書館、博物館等の施設に比べ施設理念が曖昧な文化会館を対象に、戦後日本の都市・地域において果たしてきた役割を歴史的に検証することにある。本研究では、これまで申請者が実施してきた第2次大戦終戦直後までの文化会館研究の成果を踏まえ、戦後日本の文化会館の整備過程を、特徴的な館の歴史、背景となった自治体施策等の検証、国内外の民間施設も含めた比較研究という調査を通じて明らかにする。それにより、文化会館の施設理念を歴史的観点から明確にし、同時に「箱モノ行政」というやや一面的な評価にとどまっていた戦後日本の教育・文化政策の歴史を検証することで、今後の社会における文化会館の果たす可能性を展望する。

3. 研究の方法

以下の方法で調査を進める。

【課題1 第二次大戦後の日本における文化会館の整備過程】戦後の文化会館の整備過程の概要を、資料調査から明らかにする。

【課題2 施設建設の背景となった自治体行政施策等の検証】施設建設の背景について、各自治体の資料調査、設置に関わった自治体職員、市民、有識者、企業関係者等へのヒアリングを通じて明らかにする。

【課題3 国内外の民営も含めた関連施設の比較調査】日本の文化会館の多目的性、官民入り混じった多様な主体による設置運営という特徴は、「多目的は無目的」、施設理念の曖昧さといった観点から批判されてきたが、そのある種の曖昧さが作り上げてきた文化的な公共性の層の厚みは、他国に比しても独自の意味合いを有する。このことを、国内外の民間多目的文化施設の実態調査から示す。

4. 研究成果

現地調査を基盤に据えた本研究の遂行は、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けることとなった。しかし、資料研究、文献研究に重点を切り替えて、今後の息の長い施設研究の基盤を形作ることができた。

(1) 文化会館のアーカイブに向けた基盤資料整備

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、当初予定していた各地の文化会館の訪問調査に関しては中止を余儀なくされた。その代わりに、寄託を受けていた各地の文化会館の資料の目録作成を進め、完了することができた。この目録は、散逸の危機が叫ばれている全国の文化会館に関する資料のアーカイブ整備に向けた基盤的な資料となる。現在、同資料をもとに、アーカイブ整備の準備を進めているところである。

(2) 教育文化施設の歴史・原理についての基盤的調査

文化会館だけでなく、公民館、図書館、博物館、その他集会施設も含めた教育文化施設の歴史や原理に関わる基本文献を収集し、検討を進めた。

特に、各施設の有する原理の部分に注目した。例えば文化会館であれば、集会と娯楽という二大機能がある。博物館であれば、資料保存、展示公開、調査研究、教育普及といった基本的機能がある。これらの機能はどのように構築されてきたのか。多くは、近代国家の成立発展と重ね合わされて論じられてきたが、より根本にある人が集まる行為や共同で知を産出していく営為は古今東西にみられる。このようにより原理的に考えていくことは、たんに個別の館種ごとに制度や歴史を研究していくだけでは得られない、およそ人間にとって文化的な空間はなぜ必要なのか、という大きな問いに直面することになる。

この問いは、教育文化施設の存立基盤に関わる。またこのことは、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、集まるといった行為に大きな制約がかかったなかで、インターネットの登場以上のインパクトをもって、より根本的に問われている。

今後、こうした教育文化施設の歴史と原理に関する基礎研究を引き続き進めていきたい。

(3) 文化施設関連資料の公共性

成果の一方で、課題もみえてきた。最大の課題は、研究の基礎となる資料の扱いである。文化会館の設置運営に関する資料は、各会館、設計者、行政など、所有者がはっきり決められてはいない。また、公文書としての位置づけも弱く、散逸の危険が非常に高く、廃棄されてしまう例も多い。文化会館の歴史は、施設の歴史にとどまらず、施設が位置づく都市の歴史であり、社会の歴史でもある。文化会館に関する資料整備や保存公開の原則、仕組みの構築など、今後も調査研究を進めていきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 新藤浩伸	4. 巻 16
2. 論文標題 書評 直指人心：北田耕也先生追悼集	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 社会教育・生涯学習研究所年報	6. 最初と最後の頁 173-175
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 ユネスコ生涯学習研究所、新藤浩伸（翻訳・文責）	4. 巻 65(4)
2. 論文標題 新型コロナウイルス感染症問題へのユネスコの提言 ユネスコ生涯学習研究所のノートから	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 月刊社会教育	6. 最初と最後の頁 52-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Raiza Goncalves Santos, Jonson Ney Dias da Silva, 新藤浩伸（翻訳）	4. 巻 64(12)
2. 論文標題 成人教育の場でのデジタル技術の活用	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 月刊社会教育	6. 最初と最後の頁 58-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Shindo Hironobu	4. 巻 69
2. 論文標題 Book Review: Adult Education, Museums and Art Galleries: Animating Social, Cultural and Institutional Change, by D. E. Clover, K. Sanford, L. Bell, & K. Johnson (Eds.)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Adult Education Quarterly	6. 最初と最後の頁 157 ~ 158
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/0741713618815451	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 新藤浩伸	4. 巻 63(6)
2. 論文標題 生きた文化の担い手たち：秋田県・男鹿のナマハゲ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 月刊社会教育	6. 最初と最後の頁 64-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新藤浩伸	4. 巻 63(9)
2. 論文標題 消えないかがり火 旬報社からの刊行によせて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 月刊社会教育	6. 最初と最後の頁 44-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池上洋通, 妹尾浩也, 新藤浩伸	4. 巻 63(10)
2. 論文標題 座談会 市民のための雑誌の未来	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 月刊社会教育	6. 最初と最後の頁 46-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新藤浩伸	4. 巻 63(11)
2. 論文標題 「表現の不自由展・その後」展示中止の経緯と今後に向けて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 月刊社会教育	6. 最初と最後の頁 46-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新藤浩伸	4. 巻 62(11)
2. 論文標題 「実際生活に即する文化的教養」とは何か	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 月刊社会教育	6. 最初と最後の頁 10-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新藤浩伸	4. 巻 54
2. 論文標題 地域文化をめぐる社会教育研究から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 社会教育学研究	6. 最初と最後の頁 94-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新藤浩伸	4. 巻 62(4)
2. 論文標題 文化と社会教育 表現を磨き、美意識を育てる	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 月刊社会教育	6. 最初と最後の頁 25-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 7件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 新藤浩伸
2. 発表標題 西東京市ひばりが丘公民館30周年によせて
3. 学会等名 西東京市ひばりが丘公民館公開座談会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 新藤浩伸
2. 発表標題 新しい生活様式における公民館の役割
3. 学会等名 東京都昭島市公民館利用者懇談会学習会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 新藤浩伸、北垣憲仁、今井尚、伊藤瑠依
2. 発表標題 博物館の原理に関する研究－空間・集い・経験（2）
3. 学会等名 東京大学ヒューマニティーズセンター第30回オープンセミナー（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 新藤浩伸、北垣憲仁、今井尚、前田太仁、伊藤瑠依
2. 発表標題 博物館の原理に関する研究－空間・集い・経験（1）
3. 学会等名 東京大学ヒューマニティーズセンター第23回オープンセミナー（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 新藤浩伸
2. 発表標題 アメリカの総合大学での芸術実技教育
3. 学会等名 東京大学芸術創造連携研究機構 学内研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 新藤浩伸
2. 発表標題 表現・文化活動と公民館の役割
3. 学会等名 昭島市公民館利用者連絡会学習会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 新藤浩伸
2. 発表標題 公会堂からみる人々の暮らし 集いの場所の昔と今
3. 学会等名 まちなかキャンパス長岡（招待講演）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 北田耕也先生追悼集編集委員会	4. 発行年 2020年
2. 出版社 私家版	5. 総ページ数 381
3. 書名 直指人心：北田耕也先生追悼集	

1. 著者名 日本社会教育学会（編）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東洋館出版社	5. 総ページ数 226
3. 書名 地域づくりと社会教育的価値の創造（日本の社会教育第63集）	

1. 著者名 日本音楽教育学会	4. 発行年 2019年
2. 出版社 株式会社音楽之友社	5. 総ページ数 248
3. 書名 音楽教育研究ハンドブック	

1. 著者名 東京大学教育学部教育ガバナンス研究会	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 304
3. 書名 グローバル化時代の教育改革	

1. 著者名 小林 真理	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 308
3. 書名 文化政策の現在3 文化政策の展望	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------

ドイツ	ベルリン工科大学			
-----	----------	--	--	--